

平成 14 年度青年技術士協議会 秋期研修会を開催

平成 14 年度青年技術士協議会 秋期研修会は、平成 14 年 10 月 31 日(木)16:00～18:00、参加者 65 名で、きょうさいサロンにて開催されました。

研修会のテーマは、「特区構想・規制緩和の壁を乗り越えて」です。研修会は、以下の次第で進みました。

- ・開会挨拶 青技協会長 加治屋安彦氏
- ・講演 1 特区の概要と北海道のねらい
北海道経済部産業政策推進室主査 長橋聡氏
- ・講演 2 札幌市のエネルギー分野における特区の取り組み
札幌市企画調整局企画部新エネルギー政策担当課長 山際裕信氏
- ・話題提供：EPO によるアンケート結果報告
- ・討論会

内容の概略は次の通りです。

講演 1

平成 14 年 4 月に経済財政諮問会議で特区構想の提案があり、8 月末までに提案募集がありました。

全国からの特区の提案は 426 件でしたが、北海道内で出た提案は 64 件あり、北海道の関心が高かったようです。この 64 件のうち、北海道の出した提案は 4 件ありました。長橋さんはこのうちの 1 件である「ベンチャー創出（産学官連携）特区」の提案に携わったとのこと。この特区は、大学の知的な資源に着目したもので、例えば、大学の教員が民間企業の役員になることができたり、大学の施設を他機関が使用できたり、大学の成果を産業化したりするという内容です。このほかに

は、燃料電池に係る「エネルギー特区」、農家の担い手不足解消を目的とした「農村再生特区」、北海道に退散存在する森林の活用を目指した「森林クラスター特区」の説明がありました。

特区とは、他の地域とは異なる制度で運営される特定の地域内を差し、規制を緩和すれば、企業が運営しやすくなり、経済の活性化につながります。しかし、ただ規制を緩和しても他地域または、現在進行中の事業に悪い影響が出てはいけません。北海道においては、農業、林業等 4 件の柱の中で 32 本の規制緩和案が出されていますが、この実現には、各省庁の同意が必要ですので、実現への道は厳しいものがあるとのこと。

研修会では、特区の概要と北海道の取り組みとして、政府の動き、制度の目的、全国的な動向、および、今後の予定について分かりやすく説明がありました。

まさに、現在進行形である生々しさが、構造改革と既存の法規制変更のスピードがマッチングしていないジレンマや自治体における閉塞感の打破が感じ取られました。



長橋さんの講演

講演 2

札幌市は、特区に近い内容であることから都市再生事業と特区と一緒に考えているようです。そしてできることであれば、経済力のある民間企業の力で都市再生事業や構造改革を実施してほしいようです。特区の導入に対しては、各省庁で温度差があり、また特区の規制緩和には代替え措置をつけなければならないという制約があることから、一地方自治体で実施するのは非常に大変のようです。

札幌市の都市再生は、21世紀型の都心創造、エネルギー有効利用都市、国際的集客交流・産学官連携という3つのターゲットに向けて特区の申請をしているとのことでした。

21世紀型の都心創造特区は、都心に車を入れないことを重視した考え方で事業を進めていくのですが、札幌市の中心部に位置する4つの通りを軸として都市再生プロジェクトにより緊急整備地域を特区として、色々な優遇措置により民間の活動を側面から援助するものです。

エネルギー有効利用都市特区は、民間再開発をケーススタディとした新エネルギーの開発や導入、活用を目指すものです。これは、札幌が多雪寒冷であることから冬期のエネルギー消費が大きいことや、民生部門のエネルギー消費が大きいことなど、エネルギーを多消費する都市であるためです。

国際的集客交流・産学官連携特区は、産業・経済交流の促進やコンベンション誘致強化など独自のものもありますが、産学官の連携など北海道で提案しているベンチャー創出特区と同じ部分もあります。特区を実現するに当たり規制を緩めようとする官庁と絞めようとする官庁があり差があるという例をまちづくりに対する自治体の想いと警察の考え方を例にしてわかりやすく説明されました。

山際さんは、札幌市の取り組みに関連する話も話題提供され、大変な様子が少し理解できたような気がします。

青技協からの話題提供

今回は、研修会のテーマである特区に対する理解を深めていただくということで、事前に特区に関するアンケートを実施し、そのとりまとめを話題提供としました。49人からのアンケート結果をまとめたものですが、特区に対する興味と理解が大きくなったと思います。



山際さんの講演

第2のテーマ

懇親会では、夏期研修会の反省から、食べ物を残すのは良くないという環境的側面の指導より、しばし、無言の食事タイムという不思議な時間帯がありました。青技協OBの方々からの叱咤激励タイムを始め、有意義な時間をすごすことができました。その成果は写真の通りです。



懇親会後の食卓